

平成30年度第2回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日 時	平成30年12月17日 曜日 午後7時～
場 所	坂井市役所 多目的研修センター 円卓会議室
出席者	委員：石川会長 水野副会長 堀田委員 伊東委員 奥原委員 平田委員 渡辺委員 堀内委員 森岡委員 長侶委員 内田委員 事務局：三田部長 西課長 坪内課長補佐 森田課長補佐 江川課長補佐
欠席者	1名
協議事項	(1) 坂井市子ども・子育て支援事業計画策定について (2) 坂井市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について (3) 定員の変更について
提出資料	・坂井市子ども・子育て支援事業計画策定の流れ ・坂井市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について ・H31 保育園入園申込状況 ・子ども・子育て支援法、基本指針抜粋 ・設問項目一覧表 ・ニーズ調査(案)就学前児童用 ・ニーズ調査(案)小学生児童用

1 開会

2 会長あいさつ

【会長】

出席委員数の確認 12人のうち一名遅れる 過半数以上出席なのでこのまま開始。  
傍聴人なし。

3 議題

議事1・2 坂井市子ども・子育て支援事業計画の策定について、それに関連するニーズ調査について

【事務局より説明】

【会長】

皆様からのご意見ご提案を頂戴したいと思うが、まず今年度と次年度の策定の流れにつ

いて何か質問等あるか。

次年度は調査結果を踏まえて坂井市としての事業計画を策定するために、回数としては6回開催する予定。その中で事業のラインナップ、特に重点施策などをどのようにするかというようなご議論をいただくことになると思う。そのためのニーズ調査を今年度中に行うということで、ご説明のとおり、就学前の児童で1000人ほど、小学生の児童で1000人を対象に、抽出型で行う。国に出さなければいけない国指定の調査項目もあるので全体としてはボリュームが大変大きくなってしまふのがどこの自治体も同じでご負担をかけてしまいがちなのだが、できるだけそういうところにも配慮して軽減化を図ったところ、ご覧のようなページ数になってしまったということで、ご了承いただきたい。

まず、就学前のニーズ調査について質問紙の項目一覧がついていたかと思うので、参考資料の2。お気づきのところがあれば、ご意見頂戴したいと思う。

前回調査との比較をするというポイントもあるので、前回の質問と同じものを用意しているというところもある。

#### 【委員】

就労状況というところで、私、就学前の子どもがいるので見ていたのだが、4ページの中でお子さんの保護者の就労状況についてというところ。父母の、会社に行く家を出る時間とか細かく書いてあるが、私はシフト制の仕事をしていて不規則なため家を出る時間とか帰宅時間とかは、実際何を書けばいいのかと迷う。

正確なものを書くのがベストなのかと思ったが、3交代の人もいるし、仕事の形態を考えると、これってどう書けばいいのかと思う

#### 【事務局】

今回は前回と内容はほぼ同じということで、様式だけ少し答えやすいように変えたのだが、調査票の様式については今後コンサルと契約する予定なので、そういった方の場合の回答の仕方についても調査票を検討していただく業者があるので、相談しながら、書きやすいように変えていけたらと思うがいかがか。

#### 【会長】

4ページの上の方に点線枠で囲ってあるが、その時に、交代勤務の方は、お書きになるその週を中心に書いてくださいみたいな一言があれば書きやすいかと思うので、またそこもちょっとご検討いただいて、回答される方が戸惑いなく書けるようなご配慮いただければありがたい。

**【事務局】**

基本、日中の保育時間帯にどのような勤務をされているかということでもいいと思うので、例えば三交代されていても、お昼の預かる時間をメインに書いていただければと思う。工夫してわかりやすいようにさせてもらう。実際三交代というと、日中の勤務はどのような時間帯になるか。

**【委員】**

私は朝 6 時から 2 時とか、2 時から 10 時とか。

**【事務局】**

8 時間は 8 時間？

**【委員】**

8 時間は 8 時間。

**【会長】**

他にいかがか。

私の方から 1 点、8 ページの無償化に関する質問で、どこまでニーズ量を具体的に推計・把握できるかというところだが、ピンク色の問 15 の設問文は、幼児教育の無償化の 0 から 2 歳児の全世帯に拡大された場合というふうに書いてある、それは現在 3 歳から 5 歳で利用されている方もこれを答えることになるのだが、その方は今の一言「0 から 2 歳児の全世帯に拡大された場合」戸惑わないかという思いがちょっとあり、今まだ利用されていない方がこの設問文を読めばわかると思うが、いま現に利用されている方が無償化になった場合変わらないのか変わるのかということをつかもうと思うと、ここを少し工夫した方がいいというのが私の考えである。この場で決めなくていいが、少しご検討いただけたらと思う。

福井県の場合には 3 人目のお子さんについてはすでに無償化になっているのか？

**【事務局】**

なっています。

**【会長】**

対象年齢は、坂井市の場合は 3 人目のカウントの仕方というか。

**【事務局】**

上の年齢のことか？県は、すくすく補助金もらうには年齢制限撤廃しているので、今ま

では18歳以下という限定があったが、今はない。数え方的には。県の事業に当てはめることに関しては。

【会長】

坂井市の場合は？

【事務局】

あくまで県の事業に当てはめている。

【会長】

わかりました。

【会長】

無償化によって、どのような教育・保育の施設・場所・サービスを選ぶことに、変わるのか変わらないのか、そこは開いてみないとわからないところである。難しい判断になると思う。

【委員】

就学前児童用で、小学校就学後の放課後の過ごし方について 問24で「小学校になったら放課後をどのような場所で過ごさせたいと思いますか」で、正直イメージがつかないというか、実際利用させるかどうかはまだわからないところではあるので答えられないかなということと、これは事前に利用させたいということを聞いて利用者をみるとかっていることも含まれているのかなあと、じゃあここで答えられなかったら後で何かなるのかなあと。ここがわからなかったというか。

【事務局】

実際小学校に入れているお子さんをお持ちでない方が質問を受けることで想像しづらいのではなかということか。

【委員】

「一定の利用料がかかります」と最後に書かれていると、どうかなと。

【事務局】

すべてではないが利用料のかかるものもあるということで、戸惑われるのか。

【委員】

そう。私まだ利用したこともないので。

**【事務局】**

要は放課後に預かるという制度もまだわかってないし、いきなり書きにくいということか。

**【会長】**

直近のニーズとしては年長さんというか、5歳児には、園を利用している人はお子さんが小学校になった時にどうするかっていう、そこが一番の直近のニーズになってくると思う。でも「利用料かかります」という情報は必要。これなしで答えていただくのも。

どれか一つってわけではないので、1週間のうちどれかあてはまるものに○をつけていただくっていう、希望するところも含めての回答なので、これで見定める範囲でいいかと思うが。

0・1・2歳のお子さんをお持ちの方が、その子が小学校高学年になる時の放課後の過ごし方までなかなか想定はしづらいと思うので、ちょっとどうかとは思ったが。

**【事務局】**

一応国の必須項目になっている。注意書きが下の方にあるが、これでわかりにくいようであればもう少しわかりやすく記載方法を変えるか。

**【委員】**

先ほどの無償化のところに戻るが、幼稚園の預かり保育料は無償にはならないと認識していたが、ここに書いてあるとおり無償化になるのか。

**【事務局】**

サービス上は形態によってなる場合とならない場合がある。認可外保育園が届け出てそれがサービス受けている場合はプラスされる場合がある。

**【委員】**

坂井市ではそういうところは？

**【事務局】**

それは県の方で認可外保育園を把握しているので、それは今からこちらで見通しを立てていく状況。公立園ではない。

**【委員】**

このまま、うちの園の保護者が見た時は、幼稚園部も無償化になるのだという風を感じてしまうかなと。

【委員】

調査の対象が 1,000 人と書いてあるが、どういう内訳で 1,000 人？偏ると思うが。

【事務局】

三国町、丸岡町、春江町、坂井町の世帯の比率で調査をしたいと思っている。坂井市全域となっているが、町単位の比率で、無作為だが、比率だけは町単位で出したいと思っている。

【委員】

その件だが、第 1 回もすでにやられてらっしゃるということか。

【事務局】

5 年前です。

【委員】

その時も同じようなサンプリングで？

【事務局】

はい。第 1 期計画の際には就学前児童 3,000 件、小学生 1,000 件、合計 4,000 件させていただいている。

【委員】

その時に返ってきた答えというのは、全部返ってきたというわけではないと思うが。

【事務局】

はい、回収率は 50% だった。今回配布数は少ないが、調査には十分な量ということで、回収率を上げたいので、回収の仕方を工夫し、前回は郵送で返していただいたが、今回は園や小学校でも配布・回収にご協力いただいて回収率を上げるような工夫をさせていただこうと思っている。

【会長】

子育て家庭の方にもランダムに行くのか。今どこも利用されていない方にもいくのか。

【事務局】

はい。

【委員】

となりますと、フォローが足りない可能性とかは？

【事務局】

子育て家庭の方には郵送になるが、その部分の回収率は園や学校の回収率よりは下がる  
とは思いますが、前回は50%出ているので、最低でも50%は出ると見込んでいる。

【会長】

では次に、小学生児童用はいかがか。こっちは少しボリュームが小さくなっているがそ  
れでも10ページはある。

小学生になり、親御さんの関心も少し変わってくる場所もあると思う。小学生児童用  
では新規の設定質問はないのか。

【事務局】

ございません。

【委員】

1ページのところに「子どもの育ちをめぐる環境について」と書いてあるが、問8。  
「お子さんから見た関係でお答えください」あてはまるものすべてについて「○」で、  
これは大概母親だと思うが、祖父母が同居していれば祖父母、これ2つではなくて施設も  
当てはまるから小学校とかも入る。その人その人の考えだが、学校のことはもしかしたら  
当たり前だって思いで受けてしまうのではないかという気がした。育てるっていうか、学  
校は教育なので、どうかな、と思った。これを見ると間違いなく小学校も学童保育も入る  
と思うが、あまりそういうことを知らない方はどうか。父親とか。

【会長】

確かに小学校は日常的にかかわっている方はどなたですかと言われて、どうか？小学校  
が選択肢に入っているのは何か意味があったのか？これ国にも？

【事務局】

はい。様式の中には当初から入っている。  
こちらの方は黒字で示してある任意の項目であるため、回答者の方にわかりやすいように  
各市町の方で修正することは可能だと思う。

【会長】

教育を含むと書いてあるからか。難しい質問。  
スポ少とか学習塾とか出て来るかもしれない。小学校高学年だと。そうやって書いてくれるか、どうか。

【委員】

これは逆に小学校に行けてないとかそういうこと？

【会長】

それはちょっと。

【会長】

仮にここの数値が低かったからと言って小学校義務教育の意義が変わるわけではないと思う。選択肢に入っているとちょっと。難しい。

【事務局】

ちなみに第1期の調査結果は、小学生児童のところの回答では、父母ともに58.2%回答があり、小学校も54.6%と高くはなっている。

【会長】

一番高かった数値が58.2%の父母か。

【事務局】

はい、一番高かったのが父母ともに58.2%で、2番目が小学校の54.6%、母親が37.3%、祖父母が34.3%、父親が3.6%となっている。

【委員】

それは母親がちょっと低い。

【事務局】

「父母ともに」が58.2%なので、両親がかかわっているという意味で一番多いのが58.2%で片方だけというのがぐんと低くなっている。

【会長】

当てはまるものすべてにしても父親の数値が低すぎる。

**【事務局】**

今度は上がるかもしれない。いろいろ環境が変わって。そういう変化も見ることには可能。

**【会長】**

では前回どおりということで、選択肢としては残しておくことにする。  
他お気づきの点ないか。

小学生の方は4ページ放課後児童のところが出てくるが、問13の1のところ、4ページの下の方、ここはまさに放課後児童クラブに対しての利用者からみた評価をいただくような質問を一つ入れてあるため、シビアと言えばシビアな質問。

**【委員】**

やってみて思ったが、数字がわかりにくいというか、数字だけで、カッコがついた数字とカギカッコがついた数字と、数字見えてやっっているのが嫌になってしまう。

例えば5ページの間13で、1または2で7に○をつけてください。この1はどこの1なのかまず探さないといけないし、7はどこの7なのか。カギカッコのついた数字とカッコの数字の違いが今はわかるが、やっっているとまどった。アイウとかつけるわけにはいかないのかなど。同じ数字がいっぱい並んでいて途中で嫌になってしまっって出さなくなるとか。

**【会長】**

遡らないといけないから。

**【委員】**

何の問題の中で、何について何の数字か気が付くのに時間がかかる。

**【事務局】**

「問13の(1)」で7にマルをつけた方という表現の仕方を、「(1)現在の状況」で放課後児童クラブにマルをつけた方とか、そういう丁寧さが必要ということか。

**【委員】**

そうなると、くどくなる。そういうのがいっぱいある。カギカッコをあいうえおとかABCとか。

**【委員】**

数字以外の。せめて見開きやったら。

**【会長】**

どうしても誘導せざるを得ないので。やっぱり難しい。ならばまた一度コンサルと相談していただいて、マーク、記号番号の付け方について一工夫していただけるか。

**【事務局】**

わかりました。

**【委員】**

小学校に上がった方の問 11 で悩みがあるかないか聞いてあるところがあるが、ここに途中で「子育てに関してパートナー・配偶者の協力が少ない」と書いてある。パートナーと配偶者ってどういうあれなのかって話もあって、そういうことを考えているにも関わらず、父母の働いている状況みたいに書かれているので、必ずしも父母じゃないと思って、半端に書いてあるなと思っていて。父親でなくても、そういう人って。考えすぎなのかもしれないが、ちょっと不思議だなと思った。

**【事務局】**

問 5 の方で配偶関係を聞いているので、例えば配偶者はいないというところにマルを付けた方が、こちらで配偶者と回答しにくい場合はパートナーという形もありかと。

**【委員】**

これは祖父母とか友人知人、協力してくださる方をまとめてパートナーというのではないか。

**【会長】**

どうだろうか。一般にパートナーと使う場合には、婚姻関係にはないけれども同居していたりとか、そういう方のことを言うかなとは思うのだが。この文脈では。

あえて配偶者・パートナーの部分は割愛してもよいか？ということだが。プライベートなことだから。

**【委員】**

この設問の中に祖父母とかの協力はないうってまったく出てこない。意見が合わないとか。どちらかというとなら祖父母と合わないっていう方が多いかと思うが。

**【会長】**

身近なデータではね。

【会長】

前日も 配偶者・パートナーで聞いていたか。

【事務局】

前回の様式も全く同じかたちである。

【会長】

わざわざパートナーの定義を言うのも、かえって… それはしたくない。

【委員】

難しいところである。いろいろな家庭があって、いろいろな事情がある。

【事務局】

要は、そう人らに協力を得ているかとか、合わないかとか、そこを知りたいだけなので、協力者としてしまうか、そういう人がいるかいないか、あわないという判断、いないという判断、上の 10 番みんな入るが、そういう捉え方で大きくいってしまえばぼやかせるというか。

【会長】

一時期と比べるとパートナーという言葉づかいについてはだいぶ認識はいただいていると思うので、これでいいかなと思っているが、今ご意見出たように、祖父母と意見が合わないっていうのは具体的に選択肢一つあげてもいいかなと思う。その他に書いてくれればいいが、そのことを、それよりかは 19 番でも 20 番でも、「祖父母との意見が合わない」という選択肢を一つ、ちょうど一行空いているからここに。 不安や悩みとか。

【事務局】

12 番の「・パートナー」という表記をすべてなくし、配偶者と表記、選択肢を一つ追加するというので、「祖父母と意見が合わない」を追加でよろしいか。

【会長】

パートナーと書くことによってその立場の人を尊重するという意味合いはあると思うが、かえって誤解を招くようなら割愛をしてもやむを得ないかなとは思っている。割愛でよろしいか？市で行うような同様の調査でこの言葉を使っている実績があればいいが、直近のものでそういうのはないか？

**【事務局】**

確認をしてみたいと思う。またコンサルにも、他の自治体の事例もあると思う。

**【会長】**

一応委員会の意見としてはパートナーという言葉でなくてもいいのではないかということが一番において、関連する調査、他の自治体、コンサルの意見を踏まえて最終的にご判断いただくことにする。

就学前の児童、小学生児童のところ、全体含めて何かご質問あれば。いかがか。

それではこれからの進め方だが、この後 お気づきになることもあるかと思うので、事務局の方で受けていただきたい。ご意見を踏まえて、最終案を固めていくことにする。

**【事務局】**

1月に向けて修正と印刷の予定をしている。確定後一度ご送付させていただいた方がよろしいか。

**【会長】**

今ほどいただいたご意見ご提案踏まえまして、調査票最終版に向けて作業進めてまいり、私もそこに加わらせていただくような形にさせていただきたいと思うので、委員の皆様ご意見ございましたら、お寄せいただきたいと思う。ありがとうございました。

議題3 定員の変更について

**【事務局より説明】**

**【会長】**

定員は増やしていただいているようだが、保育士がいなくて不足しているとか言われると私も大変つらい。非常に立場がつかなくなるのだが。第一希望の人数が一旦まとまりご覧のような状況ということ。特に私立の編さんにおいて希望が多いということで、今後の調整になるかと思う。

ご意見、ご質問あればどうぞ。

**【委員】**

申込状況を見ていると、幼保園の幼稚園部の定員数はゼロとなっているのは、これは何

人でも受け入れるっていう意味か？

【事務局】

保育園と幼稚園部を合わせて、その上に書いた定員ということになる。申し込みがあれば幼稚園部は受け入れざるを得ないので、その分保育園部が減ることになる。

【会長】

悩ましい。これ調整されるのは。  
公立に回ってもらうこともあるのか？

【事務局】

そうです。

【事務局】

今回3・4・5が無償化になるという話があって、実際31年度の入園状況を見てもそれほど増減はない。ほとんど今までに入っているので、3・4・5。

【会長】

私が注目しているのは、無償化になったので今まで無理して働かなくてはいけない側面もあったけど、それを少し変更して標準時間だったものを短時間に変えるとか、あるいは保育園部から幼稚園部に切り替えるとか、そういう風な選び方をする人が出て来るのかどうか注目したいと思っている。

現状多くの人が使っているので、さほどニーズは変わらないかなという風に見方ができる一方で、そういう人たちがどれくらい出て来るかを注目したいなと思っている。

それではまたお気づきの点がございましたら事務局の方にお寄せいただきたいと思います。

#### 4 その他

【事務局】

今後のスケジュールについて

資料2でもお示した通り、ニーズ調査の結果報告書の完了予定である3月中旬から下旬を予定しているので、その際にご案内させていただく。ご協力をお願いしたい。

【会長】

何かご意見ご質問等ないか。

その他に何か委員の皆様からご意見ご質問ご提案等ございましたらお願いしたい。

**【委員】**

無償化の0～2歳、今出ている国からの要綱では年収枠が、世帯年収で248万と聞いているがそれは本当か。

**【事務局】**

世帯のことは何も言ってない。3～5はすべて無償。0～2歳は住民税非課税世帯。今のところは。

**【堀内委員】** 就園率は99%で何の影響もない。

**【会長】**

そんな中で保育園部から幼稚園部が変わる人が出てくるかもしれない。それはわからない。

1年間は国がそこを見るのか。無償化の部分を。2年目から自治体が負担するのだろう。なかなか財源の問題もあって、また地方の負担が大きくなるのかもわからないが、その分交付税がしっかりつけばいいが。税収は増えるか。消費税分。財源的にも難しい。それでしたら予定の議案以上で、事務局に返す。

5 閉会

**【部長あいさつ】**